

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 日 作成
 20年度決算把握後平成 21 年 6 月 日 作成

事務事業名	須屋城跡発掘調査事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	教育委員会事務局	課長名	高木 敏明
	施策	22	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	生涯学習課	担当者名	浦田 信智
	基本事業	76	歴史・伝統・文化(文化財)の保護	所属班	生涯学習班	(内線)	2421
				法令根拠	文化財保護法		

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	10
	1	10	5	7	10917			コスト削減優先度評価結果	6*8
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度		13	年度)	<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (平成13年度～平成23年度 年度)		

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】
 中世(南北朝から室町時代)の遺跡である須屋城跡の発掘調査

【業務の流れ】
 現場発掘調査および整理作業(土器復元、実測、製図等)発掘調査補助業務の委託、報告書の作成、遺跡の周知

【主な予算費目】報酬、需用費(消耗品費)、役務費

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 須屋城跡の発掘調査(整理作業)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 須屋城跡の発掘調査(整理作業)
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 発掘調査面積 m イ 調査補助員の人数 人
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 須屋城跡のうち開発行為に係る部分	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 調査すべき須屋城跡の面積 m イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 発掘調査し、記録保存される	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 調査すべき須屋城跡の面積のうち調査及び記録保存できた面積の割合 % イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 良好な状態で保たれている	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 保護された割合=指定された文化財の数÷文化財の数×100 % イ

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 平成13年度～平成23年度 年度	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	48,270	16,378	16,396	16,396	12,817	12,817	12,817	総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 目 標 合 計 値 画 22 年 度
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	48,270	16,378	16,396	16,396	12,817	12,817	12,817	0	
	うち指定経費	千円	8,484	8,387	8,470	8,470	8,541	8,541	8,541		
	うち時間外、特殊勤務手当	千円									
	人件費										
正規職員従事人数	人	5	2	2	2	2	2	2	2		
延べ業務時間	時間	1,792	960	960	1,100	960	960	960	960		
(B)人件費計	千円	7,114	3,821	3,821	4,378	3,821	3,821	3,821	3,821		
トータルコスト(A)+(B)	千円	55,384	20,199	20,217	20,774	16,638	16,638	16,638	16,638		
活動指標	ア イ	m 人	3,300 30	24,900 6	24,900 6	24,900 6	24,900 2	24,900 2	24,900 2		
対象指標	ア イ	m	3,300	24,900	24,900	24,900	24,900	24,900	24,900		
成果指標	ア イ	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
上位成果指標	ア イ	%	10.4	10.4	10.4	10.4	10.9	11.4	11.4		

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
 平成13年度から国土交通省の熊本北バイパス建設予定地が埋蔵文化財の包蔵地であったため、国からの委託を受け工事に先駆けて発掘調査実施した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
 発掘調査の進行が進むと同時に北バイパスの工事が進み、予定通り共用が開始された。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
 国(国土交通省)は、平成19年度末に北バイパス共用開始の為、調査を早急に完了してほしいとのことであった。現場調査が予定通り終了し、工事も当面の目標

事務事業名	須屋城跡発掘調査事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 文化財を発掘調査し記録保存することにより、郷土の歴史を後世に引き継ぐことに結びつく。また、バイパスの建設も予定どおり進んだ。	ま
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 文化財は、歴史や文化等の正しい理解のために不可欠なものである。その保存及び活用を図ることは、文化の向上・発展に極めて重要であることから、行政の任務といえる。	そ
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 対象・意図とも現状で適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 現状において可能な限りの成果向上に努めた。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 文化遺産の棄損・滅失または開発事業の停滞・中止の可能性があった。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の事業はない。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 費用対効果としては妥当と思われる。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 埋蔵文化財に関する専門知識の必要な事業であるため、専門職員の知識と経験が不可欠である。また、本事業は調査規模が大きく期間も限られている為、調査員が不足する。そこで、一部の業務の外部委託を行い、業務遂行の促進をはかった。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 発掘調査費用の原因者負担という原則に則っている。 (国交省からの委託金は工費であるが、発掘調査の結果、遺跡に関する情報を後世に残すことができ、また北バイパスの完成により交通網が整備されることは公共性があるといえるため、妥当と思われる。)	(国交)

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 概ね事業開始当初の予定通り、平成23年度完了見込み。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

今後、この事業と類似した状況になった場合は、事業主との事前協議を密にすることで、調査内容に見合った調査期間をとることが必要と思われる。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	9	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	9	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)